

鳥と私

三年 齋藤 俊子（昭和五四年度）

朝、目を覚まして何気なく耳にする鳥の声は知らず知らずのうち心と和ませてくれる。鳥は、気づかないうちに私達人間とのつながりを持つているのだと思います。

私達の学校は、昨年から「愛鳥モデル校」に指定され、愛鳥活動をするようになりました。私はPRグループに所属し、愛鳥標語の立て札を立てたり、ポスターの作成・掲示をしたり、愛鳥新聞を発行したりしています。最初の頃は、仕方なくやらされているという感じでしたが、近頃では、だんだん関心も高まり興味も深まってきました。中でもウミネコとは仲良しになり、放課後など給食時の残りのパンなどを食べさせたりしています。

飛鳥はウミネコの繁殖地と言われているだけあって、ウミネコがたくさんいます。それだけに、漁民の漁獲をねらってきます。海岸通りなどを通ると、殺されてつるされた残酷な姿のウミネコを見かけることがあります。私は「かわいそうだ、なんてひどいことをするんだろう。」と思います。そして、ウミネコが、何かを訴えているような気がしてならないのです。いくらウミネコとは言え、命は命です。それを、人

間が勝手に奪っていいものなのでしょうか。しかし、人間の方も悪意があるわけではなく、仕方がなくやっていることなのです。

漁民が生きていくための漁獲を、ウミネコに奪われてしまったのでは話になりません。それで見せしめのために、つるしておくというわけです。どんな理由があろうとも、鳥を殺すのはいけないのか、仕方なく殺してもよいのか。これは、人間と鳥が共存していくうえでの問題ではないかと思います。

人類が発表してゆくなかで、鳥は少しずつ姿を消しつつあります。自然破壊がつのり、鳥たちの住める場所が少なくなつたからでしょう。このままでいったら、鳥は地上から姿を消してしまうのではないのでしょうか。ですから、私達みんなが鳥たちを愛し、かわいがつていかなければならないと思います。

最後に、私は、これからも愛鳥活動を通して、鳥を愛し、保護していきたいと思っています。そして、私だけでなく、日本中いや世界中のみんなが鳥を愛し、愛鳥活動というものが広まることを、私は心から願いたい気持ちでいっぱいです。